

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善実践

北海道中標津支援学校 学級数 小学部 6 中学部 4 高等部 15 (校長 平井 孝和)

□ 実践の概要

令和5年度の校内研究として、カリキュラム・マネジメントの視点から本校における各教科等の指導目標及び年間指導計画や単元配列を整理し、教科等横断的な実践や学年間の系統的な実践の実現を図るとともに、検討内容を資料としてまとめ、次年度以降の更なる活用につなげることとした。

1 実践の目的

校内研究の取組を通して、教科等横断的な視点を意識した授業実践を行い、教職員一人一人がカリキュラム・マネジメントに参画し、学校全体でカリキュラム・マネジメントを推進すること、また、小・中学部、高等部に在籍している児童生徒の多様な実態を踏まえ、学びの連続性や系統性を意識した組織的・計画的な教育活動を行うことをねらいとした。

2 実践内容

(1) 実施計画

令和5年度の校内研究において、「キャリア教育の視点に立ち、学習活動を組織的・計画的に行い充実させるための実践的研究」を主題に年間を通じた実践研究に取り組んだ。具体的には、月1回程度、研究日を設定し、各学部、学年の単元指導計画を基に、相互の系統性や連続性などを確認する打合せや、教科指導における縦割りグループの指導目標及び指導内容を確認し、学習の連続性を検討するワークショップ形式での校内研修に取り組んだ。

(2) 取組の具体

年度始めにカリキュラム・マネジメントに関する校内研修を行い、全教員の理解を深めた上で、5月のワークショップでは、各教科及び各教科等を合わせた指導の年間指導計画を基に、各学部、学年における単元一覧表を作成した。そして、教科等横断的な視点で児童生徒に資質・能力を育むため、指導内容を確認するとともに、より効果的に資質・能力を育むことができるよう、単元の実施時期や指導内容を検討した。また、6月から10月に実施したワークショップでは、指導の形態ごとに、各学年の担当者が集まり、知的障がいのある児童生徒に対する指導目標及び指導内容と照らし合わせながら、学年の系統性や連続性の確認を行った。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

前述の取組を通して、各教科と生活単元学習や特別活動を関連付けることの重要性が確認された。また、高等部では、各教科及び各教科等を合わせた指導における指導内容について、第1学年では基礎的内容、第2学年では応用的内容、第3学年では発展的内容を展開するよう、年間指導計画の改善が図られた。併せて小・中学部では、生活単元学習の各単元において、どの教科の指導内容を合わせて指導しているのか確認するとともに、各教科の指導内容が教育課程の中で網羅されていることを確認した。



【教科等横断的な関連】

(4) 改善後の取組

各ワークショップでの成果物を蓄積し、次年度以降の年間指導計画や単元指導計画を作成する際に活用することで、より学びの連続性・系統性が図られた教育課程を編成する。また、教員を対象にした校内研究のアンケートにおいて、「カリキュラム・マネジメントについて改めて意識することができた。」や、「実際に実践につなげたい。」という意見が見られた。

3 実践のポイント

校内研究としてカリキュラム・マネジメントに取り組んだことにより、学校全体で共通の意識をもって組織的に教育課程の評価・改善を行うことができた。また、カリキュラム・マネジメントへの心理的距離が縮まり教員一人一人がカリキュラム・マネジメントに参画しようとする姿勢が見られるようになった。